

○水生生物モニタリング調査結果一覧（新田川E）

<新田川E 水質底質採取項目>

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
E-2 a	○	○	○	○	○	○

<新田川E 現場測定項目>

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透視度 (cm)
E-2 a	37.6640°	140.9447°	R4. 8. 19	12:56	13:02	26. 0	25. 4	砂	10YR4/2	無	0. 65	>50

<新田川E 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
E-2 a	37.6640°	140.9447°	R4. 8. 19	12:56	7. 4	<0. 5	3. 8	8. 5	8. 0	0. 05	1. 8	7	4. 9	N. D. (0. 0017)	0. 053	0. 0017

注) N. D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<新田川E 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E <sub>N.H.E</sub> (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm <sup>3</sup> )	粒度組成							Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)	
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0. 85~2mm) (%)	中砂 (0. 25~0. 85mm) (%)	細砂 (0. 075~0. 25mm) (%)	シルト (0. 005~0. 075mm) (%)	粘土 (0. 005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)				最大粒径 (mm)
E-2 a	37.6640°	140.9447°	R4. 8. 19	13:02	7. 6	501	19. 2	1. 1	2. 3	2. 660	7. 1	20. 9	62. 2	4. 2	1. 2	4. 4	0. 63	19	6. 6	290	N. D. (0. 14)

注) N. D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<新田川E 分析項目 水生生物>

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム(Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)	
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137		
E-2 b	新田川本流	37.6635°	140.9452°	R4. 8. 21	藻類・植物	—	—	—	—	河床付着物 (藻類を含む)	—	0. 0071	—	—	—	48	N. D. (11)	48	—	
					節足動物	昆虫	トビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	ヒゲナガカワトビケラ	133	0. 030	幼虫	—	—	—	110	N. D. (6. 4)	110	—
					節足動物	昆虫	トンボ	エノトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	コヤマトンボ	11	0. 0064	幼虫 (ヤゴ)	—	—	36	N. D. (5. 4)	36	—	
					節足動物	昆虫	トンボ	オナガサナエ	<i>Meligomphus viridicostus</i>	オナガサナエ										
					節足動物	昆虫	トンボ	オナガサナエ	<i>Sieboldius albardae</i>	オナガサナエ										
					節足動物	昆虫	トンボ	オナガサナエ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	ヤマサナエ										
					節足動物	昆虫	トンボ	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>	ギンヤンマ										
					節足動物	昆虫	ヘビトンボ	ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>	ヘビトンボ										
					節足動物	軟甲	エビ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	アメリカザリガニ	11	0. 042	未成年/成体	—	—	21	N. D. (3. 1)	21	—	
					節足動物	軟甲	エビ	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	スジエビ	16	0. 011	未成年/成体	—	—	16	N. D. (4. 0)	16	—	
					節足動物	軟甲	エビ	モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i>	モクズガニ	20	0. 30	未成年	—	—	22	N. D. (1. 4)	22	—	
					脊椎動物	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ニホンウナギ	5	1. 7	未成年/成魚	モクズガニ、魚類	内臓除去	51. 9	1. 9	50	0. 18	
					脊椎動物	硬骨魚	カサガ	カサガ	<i>Cottus reinii</i>	ウツセミカジカ	5	0. 14	未成年	—	—	15	N. D. (1. 6)	15	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	ウグイ	9	0. 46	未成年/成魚	空胃	内臓除去	19	N. D. (1. 3)	19	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ	13	0. 094	未成年/成魚	—	—	12	N. D. (1. 7)	12	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Candidia temminckii</i>	カワムツ	15	0. 12	未成年/成魚	—	—	18	N. D. (2. 2)	18	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	タモロコ	7	0. 065	成魚	—	—	13	N. D. (2. 4)	13	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Hemibarbus barbus</i>	ニゴイ	24	0. 12	未成年	—	—	9. 8	N. D. (2. 2)	9. 8	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	トジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	トジョウ	24	0. 064	未成年/成魚	—	—	11	N. D. (1. 7)	11	—	
					脊椎動物	硬骨魚	サケ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	23	0. 53	未成年/成魚	—	—	58	N. D. (1. 4)	58	—	
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハセ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>	オオヨシノボリ	46	0. 14	未成年/成魚	—	—	20	N. D. (1. 9)	20	—	
脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハセ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	シマヨシノボリ															
脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハセ	<i>Rhinogobius kurodai</i>	トウヨシノボリ															
脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハセ	<i>Rhinogobius sp.</i>	ヨシノボリ属															
粗粒状有機物	—	—	—	—	水底落葉等	—	0. 26	—	—	—										86. 0
E-3	新田川本流	37. 6444°	141. 0018°	R4. 8. 21	脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	ウグイ	1	0. 035	成魚	—	—	8. 2	N. D. (1. 3)	8. 2	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ	7	0. 092	未成年/成魚	—	—	7. 9	N. D. (1. 6)	7. 9	—	
					脊椎動物	硬骨魚	サケ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	18	0. 74	未成年/成魚	—	—	30	N. D. (1. 5)	30	—	

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓(胃、腸)の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン(浮遊藻類)とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで濾した残留物を指す。

※6：河床付着物(藻類を含む)とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N. D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。